

出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

鹿児島大学病院 初期臨床研修医 小林 由実

研修時期 平成31年4月

鹿児島大学病院研修医2年目の小林と申します。2019年4月の1か月間、出水総合医療センターの地域医療研修プログラムのもと研修させていただきました。

第1週目は高尾野診療所で外来診察を経験しました。これまで経験してきた外来は救急外来や、総合病院の初診外来でしたので皆さん何かしらの主訴や紹介目的があって来院される方がほとんどでしたが、診療所を受診される患者さんには明確な主訴が無いということにまず戸惑いました。そのため、既往歴、内服歴等を確認してこちらから質問を投げかけていくという作業が大変重要でした。多い時には30分間で4人の患者さんを診察することもあり、患者さんをお待たせすることも度々ありましたが、西元寺先生のご指導の下、4日間で70名の方の診察をやり遂げられたことは私にとって大きな経験となりました。

第2週目は野田診療所で研修させて頂きました。こちらでは主にエコー検査手技を教えて頂きました。心エコーに関してはこれまで全くあてたことが無く、被検者の患者さんには長時間の検査となってしまう大変負担をかけたと思います。ご協力ありがとうございました。しかしながら1対1で心エコーを教わる機会というのは誰もがもてるものではなく、大変貴重な時間でした。

残りの2週間は院内の腎臓内科で研修させて頂き、糸球体腎炎、糖尿病性腎症、強皮症腎、クッシング症候群、中枢性尿崩症などの疾患を経験しました。また毎朝透析室へ足を運び、先生とカルテを見ながら透析業務の実態や、透析患者さんを担当するときに診ていくべきポイントなどを教えて頂きました。

また、出水市保健センターでは3歳児健診の見学をさせて頂きました。問診、歯科診察、内科健診、心理相談が行われ、健診後にはカンファレンスを実施し、お子さん一人一人に関して問題点の提示と今後のフォロー計画を協議されていました。お子さんの発達状況やご家庭の状況に合わせた、きめ細やかな支援がなされていることを知りました。

1ヶ月間を通して院内だけではなく診療所、公的機関にも行かせて頂き、これらの機関がどのように連携を取って地域医療を支えているのかを学ぶことが出来ました。丁寧な御指導をして下さった西元寺先生、長谷川先生、内村先生、吉嶺先生、大塚先生、有り難うございました。また、このような研修プログラムを作成、支援して下さいました宗清先生と病院、診療所、保健センターの職員の皆様方に感謝申し上げます。

北海道大学病院 初期臨床研修医 関 太樹

研修時期 令和元年5月

北海道大学病院初期研修医の関太樹です。北海道大学と鹿児島大学の連携の元、地域医療研修として出水総合医療センターで1ヶ月間研修をさせて頂きました。

このプログラム知った時は日本の北と南がこうしてつながりを持っていることに驚きました。2年間という短い研修生活の中でまったく異なった環境での研修ができる機会が設けられているのは素晴らしいことですし、こうして鹿児島で研修をできたことを嬉しく思います。水俣病や HTLV-1 陽性患者などが多くいるといった疾患の地域差や、スーパーで鳥刺しが普通に売っている・焼酎の種類が豊富などちょっとした文化の違いからも鹿児島に来たことを実感し楽しく研修を行うことができました。

実際の地域医療の研修としても、各診療所での研修を中心とした大学病院ではできないような多くの経験をさせて頂くことができ有意義なものとなりました。

1週目は高尾野診療所で西元寺先生の元、初めての外来診療を経験させて頂きました。慢性疾患のみならず、外傷、感染症など多種多様な患者さんが来る中で、短時間で診察、検査、処置処方を組み立てていく難しさを体感しました。

2週目は野田診療所で研修をさせて頂きました。今まで検査はオーダーして結果を見るだけのことが多く、外来診療の傍らエコーや内視鏡検査も一人でこなす内村先生の姿から、自分の未熟さを実感しました。また両診療所研修では往診、訪問診療といった在宅医療を経験させて頂き、高齢独居などで通院が難しい方にとっての重要な生命線の一つであることを再確認しました。

その他の院外研修として、上場診療所では、医療機器がほとんどない中での診療を経験しました。問診と身体診察しか頼るものがない中で、できるだけ患者さんに不利益がないように努力する難しさを学びました。また出水保健センターでは健診の見学もさせて頂きました。母子の健康、その他多くの悩みに関する相談に来るのを待つのではなく悩みを抱えている人を見つけて相談にのるよう心がけている姿が印象に残っています。

3・4週目は出水医療センターで循環器内科を中心に研修させて頂きました。心カテにもたくさん入らせて頂き、PCI後に症状が改善する様を見れたりなど、循環器内科の魅力に触れることができました。また医療安全管理室、地域連携室、リハビリテーション技術科、臨床検査科、臨床工学科、薬剤科、看護部などの多職種における研修もさせて頂きました。地域での医療に限った事ではありませんが色々な職業の方との協力により患者さんにとってよりよい医療を提供できるのだと改めて感じました。コメディカルの業務についてもより理解を深めていきたいです。

この一か月間は在宅医療、へき地医療、地域保健衛生、チーム医療など様々な要素を学ぶことができ、非常に意義深い経験となりました。また慣れない土地で少なからず不安もありましたが、先生方をはじめ多くの方に支えて頂き無事に研修を終えることができました。出水に来ることができて良かったと改めて思います。ご指導いただいた皆様、本当にありがとうございました。

北海道大学病院 初期臨床研修医 川崎 祐寛

研修時期 令和元年6月

北海道大学病院研修プログラム研修医 2年目の川崎と申します。北海道大学では鹿児島大学と協力し、それぞれの土地で地域研修を行えるプログラムがあります。私もこのプログラムに参加し、今回、2019年6月の1か月間、出水総合医療センターの地域医療研修プログラムに参加させていただきました。

第1週目は内村先生の指導の下、野田診療所で研修させていただきました。エコー検査や内視鏡、外来を一人で行う先生の姿に地域医療で求められる総合力を感じる事が出来ました。また、自分で心エコーや腹部エコーに関しては実践させていただきました。これまで救急外来でしたことはありませんでしたが、それは緊急疾患がないかを調べるのみでしっかりとした検査を学ぶ事が出来て良かったと思います。加えて、午後は訪問診療研修を行い、問診とバイタル測定を行いました。その短い時間で患者の問題点を見抜く能力の必要性を感じました。

第2週目は主に西元寺先生の指導の下、高尾野診療所で外来診察を経験しました。これまで経験してきた外来診察の経験が浅かったため、短い時間で多くの患者を診察し効率よく情報を引き出す事ができず、迷惑をおかけすることも多かったと思いますが、とても有意義な研修となりました。

残りの2週間は院内の循環器内科で研修させて頂き、慢性心不全、うつ血性心不全、虚血性心疾患、心房細動、心肺停止などの疾患を経験しました。病棟業務から救急外来やカテーテル検査を研修させていただきました。私事ですが、循環器内科を志望しており、複数の病院で循環器内科研修を行えたことに将来の幅が広がったと感じています。

また、院内研修でリハビリ科や薬剤部などコメディカルの見学もさせて頂きました。これまでの研修で身近にありながらも詳しい内容に関しては知らなかったため、改めて医療とは様々な職種がチームとなって行うべきものであると感じました。

1ヶ月間を通して院内だけではなく診療所、公的機関にも行かせて頂き、これらの機関がどのように連携を取って地域医療を支えているのかを学ぶ事が出来ました。初めは慣れない土地で不安もありましたが、皆さまが優しく支えて頂き、楽しく研修生活を送ることが出来ました。丁寧な御指導を下された西元寺先生、長谷川先生、内村先生、権藤先生、石田先生、川平先生有り難うございました。また、このような研修プログラムを作成、支援して下さった北海道大学と鹿児島大学の関係者、宗清先生を初めとする病院、診療所、保健センターの職員の皆様方に感謝申し上げます。2年間という短い初期臨床研修期間の中、言葉や気候、文化、疾患の地域差のある鹿児島で研修をできたことは一生の宝であると感じます。

九州大学病院 初期臨床研修医 比嘉 理圭

研修時期 令和元年6月

九州大学病院初期研修医2年目の比嘉理圭と申します。2019年6月の1ヶ月間、地域医療研修プログラムとして出水総合医療センター、高尾野診療所・野田診療所・保健センター・上場診療所にて研修させて頂きました。1ヶ月間という短い期間の中で、各診療所の先生方やスタッフの方々のおかげで充実した研修となりました。

私は昨年度は市中病院で、今年度は九州大学病院で研修しております。そのため、回復期の病棟や地域医療は学生時代に実習で学びましたが、実臨床では経験したことがほとんどありませんでした。

1 週目は高尾野診療所で研修させて頂き、主に外来診察を経験しました。今まで経験してきた外来は救急外来が多く、通院されている方の外来診療をしたことがほとんどなく、貴重な経験をさせて頂きました。また患者さんの数が多く時間内に診療を終えること難しさを感じました。

2 週目の野田診療所では心エコー、腹部エコー、内視鏡操作について教えていただきました。心・腹部エコー検査は必要であると分かっているながらも、しっかりと学ぶことが出来ていませんでした。今回実際にエコーを当てながら当て方や所見の取り方について教えて頂き非常に勉強になりました。高尾野診療所も野田診療所でも紙カルテだったので初めは慣れませんでした。

上場診療所ではほとんど医療器具のない診療所での外来診療を経験することが出来ました。問診やバイタルサインなどから現状を判断する必要がありますが、とても難しく、普段検査ができることにどれほど助けられているか痛感しました。病歴や身体所見の取り方をもっと学ぶ必要があると感じました。

また、出水市保健センターでは3歳児健診の問診から歯科・内科診察、歯磨きについての講習などを見学しました。心理相談が行われており、また健診終了後のカンファレンスで発達障害の子だけでなく、全ての子についての発達状況や家庭状況、母親の気がかりについて、話し合い、支援がなされていることを知りました。

3 週目からの院内研修では腎臓内科で研修させて頂きました。急性腎不全や維持透析中の方、シャント造設手術目的の患者さんをはじめ、腎疾患だけではなく、中枢性尿法相、脳梗塞や敗血症の方もいらっしゃいました。また毎朝透析患者さんのチェックを一緒に行うことで、透析患者さんでの確認事項や管理目標についても教えて頂きました。専門疾患はもちろんのこと、今まで研修してきた病院と比較するとより多くの疾患に携わるのだと感じました。そのため、幅広い知識が必要になることを痛感しました。また、多くの手技も指導していただき、たくさん経験することができました。

1ヶ月間を通して院内だけではなく診療所、公的機関でも実習をさせて頂くことで、どのように連携を取って地域医療を支えているのかを学ぶことが出来ました。西元寺先生、長谷川先生、内村先生、吉嶺先生、大塚先生、丁寧な御指導いただきありがとうございました。また各診療科の先生方をはじめ、病院関係者の皆様、診療所、保健センターの職員の皆様方にこの場をお借りして感謝申し上げます。1ヶ月間本当にありがとうございました。

九州大学病院 初期臨床研修医 浅原 健一郎

研修時期 令和元年 7 月

九州大学病院研修医の浅原健一郎と申します。今回、地域医療研修ということで 1 か月間、出水で研修をさせていただきました。

第 1 週目は高尾野診療所で、第 2 週目は野田診療所で研修を行いました。高尾野診療所では、西元寺先生・長谷川先生のご指導の下、外来診療・訪問診療を経験しました。外傷の患者さんが何人か来院され、傷の処置やフォローについて教えていただく機会があり、とても勉強になりました。野田診療所では、内村先生にご指導いただきながら、エコーや内視鏡検査を含めた外来診療・在宅医療を経験しました。特に、エコー検査の手技についてはマンツーマンで教えていただきました。どちらの診療所も、地域のかかりつけ医として、毎日多くの患者さんが来院されていました。患者さん一人一人としっかり向き合って会話をすることで、それぞれの健康状態を把握し、適切な処方・処置をしていく。まさに「地域の健康を守る」先生方の姿から、多くを学ぶことができました。

第 3・4 週目は出水総合医療センターで消化器内科を中心に研修を行いました。胃・大腸内視鏡検査、胃瘻交換などについては実際に経験させてもらうことができましたし、ESD や ERCP などの処置も多く見学させていただきました。外来の予診も少し経験させていただきましたが、2 週目で研修した野田診療所など、かかりつけ医からの紹介が多く、地域の医療連携について知ることができました。最初に診療所研修を経験していたため、より理解が深まったように思います。また、院内研修として、地域連携室、リハビリ、検査科、臨床工学科、薬剤科、看護部で研修をさせていただきました。普段見る機会が少ない他職種の業務を知ることができ、チーム医療の重要性を再認識しました。

その他の院外研修として、上場診療所でのへき地医療研修、出水保健センターでの地域保健研修を行いました。上場診療所では、宗清先生にご指導いただき、非常に限られた医療資源のなか、問診と身体診察を頼りに診療をする難しさを知りました。保健センターでは 3 歳時検診を見学し、またカンファレンスにも参加させていただいて、母子保健の現場を知ることができました。

この 1 ヶ月で、様々な角度から地域の医療について学ぶことができ、大変貴重な経験となりました。また、出水という土地がとても好きになった 1 ヶ月でした。自分は生まれも育ちも福岡で、出水はおろか鹿児島にもあまり訪れたことがなかったのですが、美味しい食べ物や素晴らしい温泉があり、何よりお世話になった方々の人柄がみなさんとても優しく、1 ヶ月間とても居心地よく過ごすことができました。次はぜひ、ツルが訪れる冬の季節にまた出水を訪れたいと思っています。最後になりましたが、研修センター長の宗清先生をはじめ、ご指導いただいた皆様方、本当にありがとうございました。

九州大学病院 初期臨床研修医 小林 裕貴

研修時期 令和元年9月

九州大学研修医 2年目の小林裕貴と申します。出身は鹿児島大学で、今回出水総合医療センターで研修させていただけたことを大変嬉しく思います。研修は院外で2週間、院内で2週間行い、院外では野田診療所、高尾野診療所、上場診療所でお世話になりました。

野田診療所では、腹部エコー、心エコー、内視鏡検査や総合的内科診断と治療について学ばせていただきました。

高尾野診療所では、先生方の御指導の下、実際に外来で患者さんを診察させていただき、処方調整や、検査の結果の説明など、大学病院で研修できない貴重な経験をさせていただきました。

現在研修している大学病院では、例えば心エコー検査はエコー検査部で行うように役割分担が多く見られますが、両診療所では多くの患者さんの検査、診断、治療、その後のフォローが診療所で完結することが多く、先生方やスタッフの方々が連携して診療されている姿が印象的でした。その姿を拝見し、医師としては総合的知識と経験、またコメディカルの方々との連携の重要性を強く感じました。また、訪問診療にも同行させていただきましたが、想像以上に独居のご高齢の方が多く、食事の状況やデイサービスとの連携状況など、疾患のみならず生活スタイルまで考慮した全人的医療が不可欠であると再認識することが出来ました。

上場診療所では、月に2回の診察に同行させていただきました。限られた医療設備の中で、患者さんの全身状態を把握する難しさを実感したと同時に、上場の医療を支える大切な診療所であることを知りました。

院内では外科を研修させていただきました。鼠径ヘルニアや胆嚢摘出術といった一般的な手術から、イレウス解除術といった緊急手術まで幅広い疾患の手術を見学させていただきました。対象組織に適した縫合法や、手術器具の有効的な使用法など手術に関することから、病態に応じた術後管理の注意点まで丁寧に御指導いただき、外科系の進路を考えている自分にとって非常に大きな財産となりました。

最後に、1か月の研修の間、多くの先生方、スタッフの方々にお世話になりました。とても充実した研修ができたのも皆様のおかげです。そして、研修医という立場にも関わらず、温かく受け入れて下さった出水の皆様、「立派なお医者さんになって下さい」とお声かけいただいた際は、とても励みになりました。

今回得られた貴重な経験と知識を糧に、立派な医師になれるよう、責任と自覚を持って、日々精進して参りたいと存じます。

携わっていただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

北九州市立医療センター 初期臨床研修医 古河 裕紀子

研修時期 令和元年9月

北九州市立医療センター研修医2年目の古河裕紀子と申します。2019年9月の1か月間、地域医療研修プログラムのもと研修させていただきました。私は福岡県出身で、学生生活も福岡で送っていたので県外の生活に触れることが初めてでした。今回の研修を通して、地域の現状やなぜ地域医療を研修する必要があるのかについて学ぶことができました。

高尾野診療所では、外来を担当させていただきました。定期的に受診されている方や検診の方、急に調子が悪くなった方など様々でした。高齢の方でもしっかりされており、現役でお仕事を続けられている方が多いことに大変驚きました。一方で、農業や畜産の担い手が少なくなっているという現状を感じました。彼らが病気で動けなくなってしまうことで、我々消費者への影響も少なからずあります。健康であることによる患者さん個人の幸せだけでなく、地域を支えることにつながると思いました。また、往診で交通の便が悪いところに住んでいる体の不自由な方や一人暮らしの方の診察も経験しました。患者さんの負担を減らすだけでなく、訪問することによって段差などの住宅の様子や、身の回りのことができているかどうかを確認することができるということに気づくことができました。

野田診療所では、エコー検査や内視鏡検査をさせていただきました。この期間に出水保健センターで保健師の方から出水市の保健についての説明を伺いました。日本の財政は消費税の増税に踏み切るほど苦しい現状であり、医療費は多くの部分を占めています。重症にならないうちに発見し、対策をするために検診が設けられているにも関わらず、受診率が低いことが大きな問題であると学びました。実際に診療所に戻ると、生活習慣病が悪化している方が多く、たくさんの薬を内服されていました。違う立場から医療を考えることができ、予防医学の重要性を実感しました。

出水総合医療センターでは小児科で研修させていただきました。先生方は、外来と入院の患者さんを、親御さんのお話を聞きながら丁寧に診療されていました。稀な疾患を抱えている患者さんが予想以上に多く、大学病院と連携をとって治療を行っていました。大きな病院までは移動も大変なので、地元の病院で同様な治療を受けられることは非常に助かることなのではないかと思いました。

月に2回の上場診療所での診療は、僻地医療を経験しました。検査は血圧を測ることくらいしかできませんが、聴診し、患者さんの話を詳しく聞き、わずかな変化に気づくことで、無医村地区の患者さんにきちんと医療を提供できるのだと感じました。

最後になりましたが、地域医療研修担当の宗清先生はじめ出水総合医療センターのスタッフの皆様、お世話になった診療所の方々に感謝致します。短い期間ではありましたが、多くの方々に支えられ、非常に実りある研修となりました。ありがとうございました。

鹿児島大学病院 初期臨床研修医 上原 景太郎

研修時期 令和元年10月

鹿児島大学病院初期臨床研修医2年目の上原景太郎と申します。2019年10月1日から1か月間、出水総合医療センター、高尾野診療所、野田診療所、上場診療所、出水保健センターで研修をさせていただきました。

第1週目は高尾野診療所での研修を行いました。これまでの研修では大学病院や中核病院での病棟業務が主体であり、外来診療は初めての経験でありました。問診や身体診察を行い、アセスメントを立てて検査や薬の処方オーダーを、外来での限られた時間内で行うといった大学とはまた違った難しさを体感しました。また内科だけでなく創処置や腰痛、膝関節痛など外科や整形外科などまさに generalist としての能力が要求される場所であると実感しました。

第2週目の野田診療所では心臓や腹部エコー、上部内視鏡などの検査を積極的にトレーニングさせていただきました。特にエコーは非侵襲的にできる検査であり、どの診療科に進むにしても必須の技術であると感じ、より一層の修練が必要であると感じました。また、訪問診療や往診にも同行し診療するという経験をさせていただきました。高齢化社会が進み、在宅医療がこれから必要性を増していく上で、いかに患者さんやその家族、施設の職員といった方々とコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことが重要かを気付かされました。

第3週目以降は出水総合医療センターの消化器内科での研修でした。上部・下部消化管内視鏡、ERCP といった検査から ESD、EMR、胆管ステント留置などの治療を経験をすることができました。また、大学病院とは異なり誤嚥性肺炎など、消化器だけでなく一般内科も含めて幅広く診療していたのが印象的でした。地域の最後の砦として日々奮闘されている先生方の姿を拝見し、刺激を受けることができました。また、多職種連携として院内の臨床工学科や臨床検査科などで研修させていただきました。普段医師が何気なくオーダーや依頼している検査等が、様々な職種の方に支えられた上で、患者さんに医療の提供ができているということを改めて実感し貴重な体験をさせていただきました。

その他に、出水保健センターや上場診療所での研修も行いました。出水保健センターでは域保健の取り組みについて教えて頂き、また実際に3歳児健診に参加することで、保健センターが地域において住民の健康増進に寄与するため日々努力し、必要ならば医療機関受診につなげていくという連続した医療提供を経験することが出来ました。上場診療所では無医村地区での診療、検査機器のない状況で診療することの難しさおよび、医療機関へのアクセスが容易でない場所で如何に医療提供を行うかの重要性を感じました。

最後になりますが、貴重な研修の機会を頂きまして誠にありがとうございました。今回の研修で経験したことを活かし、今後医師としてよりよい医療を提供できるよう精進して参る所存です。お忙しい中時間を割いて熱心に御指導下さりました先生方およびスタッフの全ての方々に深く御礼申し上げます。

公立八女総合病院 初期臨床研修医 佐藤 秀弥

研修時期 令和元年 1 1 月

公立八女総合病院初期臨床研修 2 年目の佐藤秀弥と申します。2019 年 11 月の1ヶ月間という短い期間でしたが、地域医療研修で出水医療センターをはじめ、高尾野診療所、野田診療所など多くの施設で研修させていただきました。

私は長崎県出身、福岡県在住でありまして、出水市は同じ九州で鶴がいる街ということは知っていたのですが、今まで訪れたことはなく初めての環境に不安でした。しかし 11 月初日に各施設への挨拶を行った際に皆様に温かく迎えて下さり、不安が期待に変わっていったことを覚えています。街の方々も優しく実りある研修が行えました。ここに一部ですが研修内容をご報告いたします。

高尾野診療所においては西元寺先生、長谷川先生のご指導のもと外来診療を行いました。慢性疾患の高齢者の患者さんが主でしたが外傷の患者さんも多く、内科や外科などの専門領域を問わず、医師として幅広い知識が求められるのだと感じました。

野田診療所においては内村先生にご指導頂きました。今後は専門領域として循環器内科に進む予定の私に心エコーの基本を熱心に教えて頂きました。また「病気を見逃すことがないように全身を診ることが大切だ。」という言葉とともに腹部エコーについてもしっかり指導頂き、今後の糧となりました。

上場診療所ではインフルエンザの流行前の時期ということもあり、診察と予防接種を主に行いました。上場は出水市内から車で約 40 分を要し、山道も多いため、高齢者で移動手段が限られるの方々にとって、このような診療はとても重要なことだと改めて感じました。

出水保健センターでは 3 歳児健診を見学しました。30 名ほどの健診が終了しその後の保健師さんによるカンファレンスにも参加させて頂いたのですが、健診で異常がない子に対しても、家庭環境や生活環境などにスポットをあて、丁寧に対策を考えていく光景に感銘を受けました。

出水医療センターでは循環器内科において諸先生方のもと、カテーテル治療などに入らせて頂きました。また薬剤部や臨床検査部など各部署の方々にお世話になり、同じ医療に携わる方々の職場を見学、体験させて頂きました。言葉は分かっているけどあまり理解できていない部分が多かったのですが、実際に現場で感じることで医療は多職種力を合わせて成り立っているのだと改めて感じる事が出来ました。

最後になりましたが、出水地域医療研修に携わって頂いた多くの方々に深くお礼申し上げます。1 か月という限られた時間でしたが、大変貴重な経験をさせて頂きました。この経験を忘れず今後の人生に活かしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

鹿児島大学病院 初期臨床研修医 赤星 光紀

研修時期 令和元年 1 2 月

鹿児島大学病院研修医 2 年目の赤星光紀と申します。今回、地域医療研修で 1 か月間研修させていただきました。研修の部署は出水総合医療センターを中心に野田診療所、高尾野診療所、保健センター、上場診療所においても研修させていただきました。

第 1 週目は野田診療所で内村先生にご指導いただきました。主に外来診療の陪席、それに加えエコーのご指導をいただいたり在宅医療での診察をさせていただきました。とくにドクターヘリ搬送症例を経験したことが印象に残っております。

第 2 週目は高尾野診療所で西元寺先生にご指導いただきました。外来診療を実際に経験させていただきました。予約時間が立て込んでいる中で手際良く、しかし重要な所見は見逃さずに診療を行っていく難しさ、重要性を学び今後の課題として向き合っていかなばと実感しました。診療所では特に夫婦で受診されることが多くそれぞれの配偶者からの情報も非常に大事であることを学びました。今後夫婦だけではなく同伴の方からも情報もしっかりと聞き診療に生かせるようになりたいと思います。

院外研修は出水保健センターで出水地域の成人保健、母子保健について学びました。とくに母子保健では健診後にスタッフが集まり今後のフォローについて話し合う場に参加させていただき、実際の現場で何がなされているかや行政と医療機関との連携について学ぶことができました。

上場診療所では宗清先生にご指導いただきました。限られた医療資源でいかに見落としなく診療を行うかについて学びました。

院内では腎臓内科で吉嶺先生と大塚先生にご指導いただきました。外来陪席、透析見学、穿刺、入院の方の診療を行いました。今回初めて腎臓内科を研修させていただきました透析導入の基準や腎疾患の治療方法、ステロイドの使い方、減量の仕方など様々なことを学びました。

また多職種連携については医療安全管理室、看護部、地域医療連携室、薬剤科、リハビリテーション技術科、臨床検査科、臨床工学科で研修させていただきました。今までの研修を行う中で詳しい内容について知らない面もあり今回の研修で実際どのようなことが行われていることを学ぶことができました。

今回 1 か月間、院内だけではなく診療所、保健センターでも研修させていただきました病院だけではなく様々な機関が連携を取ることで地域住民の方の健康を守っていることを改めて実感しました。最後になりましたが先生方をはじめ多くのスタッフの方に支えられて非常に有意義な 1 か月間を過ごすことができました。ご指導いただきました皆様方、本当にありがとうございました。

北九州市立医療センター 初期研修医 木田 裕太郎

研修時期 令和元年12月

2019年12月の1ヶ月間、鹿児島県出水市で地域研修をさせていただいた。1ヶ月のうち1週間ずつ高尾野診療所、野田診療所で、2週間を出水総合医療センターで研修を行なった。

初めの1週間は高尾野診療所での研修だった。高尾野診療所では西元寺医師、長谷川医師の下で外来診療、訪問診療を行なった。外来は高血圧症、脂質異常症、糖尿病を始めとした内科疾患に加え、院長の西元寺先生が外科医であることもあり、外傷の急患対応も行ってた。外傷は転倒などの一般的なものから、農作業中の鎌での切創、牛の世話中の打撲、裂創など出水の土地柄が伺えるものもありとても勉強になった。訪問診療では長谷川先生と同行し診療させていただいたが、本当に車が通れるのか心配になる程の道を通る事もあり、地域医療の醍醐味を感じると共に医療が行き届かない地区での訪問診療の重要性を痛感した。

2週間は野田診療所で研修を行った。野田診療所では内村医師の下でエコー検査、外来診療、訪問診療を行った。内村先生は循環器内科がご専門であり、毎日外来診療の前に、心エコー検査を始めとし、腹部エコー、血管エコーをされており、私もご指導頂きながら検査をさせていただいた。私自身は救急外来でスクリーニング目的のエコーをする事はあったが、詳細な検査をするのは初めての経験であった。多くの場合エコーは専門の技師が行っており、これから自分で行う事は少ないかも知れないが、検査結果の理解や、また救急で自分で行う際にも役立つ、大変貴重な経験になった。野田診療所は比較的重症な心疾患、呼吸器疾患の患者さんも通院してこられており、救急車で広域医療センターに転院搬送することもあり、まさに地域に不可欠な診療所だと実感した。

また2週目の1日は出水保健センターで3歳児健診を見学させてもらい、貴重な経験をさせて頂いた。

後半2週間は出水総合医療センターの腎臓内科で研修を行った。私が初期研修を行っている北九州市立医療センターは腎臓内科はないため、今回希望してローテートさせて頂いた。研修中は主に透析室での透析管理、病棟管理、外来見学を行った。透析では脱血、返血の穿刺をさせて頂いたり、体重、電解質のマネージメントを教わった。また病棟、外来では腎症や腎性貧血等を学ばせて頂いた。電解質や血圧、腎機能の管理はどの科でも直面する問題であるので今後役立つ大変良い研修ができたと思う。

2週間に1度、上場診療所にも出水総合医療センターの宗清医師に同行し診療させて頂いた。上場診療所は車で30分程度山を登ったかなり交通の便が悪い場所にあり、患者の数は多くないものの、地区にとって大変重要な役割を担っている診療所である。健康状態に変化がないか診察したり、インフルエンザの予防注射等を行った。

この1ヶ月間を通して、都市部とは異なる医療資源や患者背景での診療を体験し、都市部よりも患者一人ひとりにあった医療を提供する必要性があると感じた。診療自体以外にも患者の生活背景や家族構成等、より詳細な情報を把握しておかなければ良い診療に結びつかないケースも多く、患者目線での医療を行う重要性を認識させられた。今後の診療でも出水の地域研修で学んだ事を活かし、より患者に寄り添った医療を実践できるよう日々邁進していきたい。

最後にこの1ヶ月間お世話になった出水総合医療センター、診療所の先生、スタッフの方々、研修に御協力くださった患者様に心よりお礼申し上げます。

九州大学病院 初期臨床研修医 加藤 あさひ

研修時期 令和2年1月

これからの日本の医療を支える立場として、座学として「地域包括ケアシステムについて」や「高齢化社会について」などは、これまでも度々学んできたつもりでした。昨今では医師の国家試験にも少なからず介護保険制度等については出題もみられます。しかし、今回、一カ月間の地域医療研修として出水の皆様にお世話になり、具体的に行っている取り組みについて様々な職種の方にレクチャーいただき、実情は知らないことばかりであることが身に沁みました。ご指導いただきありがとうございました。

出水総合医療センターでは循環器内科でのお仕事を教えていただきながら、様々な立場からみたチーム医療について学ばせていただきました。これまで大学で行ってきた研修では医師としての仕事を覚えるのに精一杯であったため、時間をとって改めて他の立場からのチーム医療を体験することができたのはとても有意義なことでした。何気なく「お願いします」と頼んだあとは任せてしまっているお仕事がどんなに大変であるかを忘れずにこれからは働きたいと思います。

保健所では3歳児健診を見学させていただきましたが、保健師の方々のカンファレンスでは「〇〇さんはこういう風なことを困っていらっしゃる」「□□さんのところは、どんな感じでした？」という話し合いがされていて、地域のお子さんをみんなで温かく見守っているのだと強く感じられました。

診療所の研修では、限られた医療資源を用いて重症の患者さんを見極めることの大変さと、大事に至らないように生活習慣病の予防が必要であることを認識していただき一緒に頑張ってもらい難しさを学びました。普段、大学病院に勤めている身と致しましては、訪問診療の経験も初めてでした。驚いたのは、訪問診療で伺ったみなさまは、確かに足腰が弱られていて病院への通院は難しい状態の方が多くですが、お元気でいらっしゃったことです。訪問診療でお会いしたみなさまだけでなく、90歳、100歳を超えてもとてもお元気でいらっしゃる方にたくさんお会いして、本当に感激いたしました。

みなさま、食べ過ぎやお塩が多すぎにならないように気を付けられて、末永くお元気でお過ごしください。短い期間ですが、本当にお世話になりました。今回学んだことを胸に、今後とも立派な医師になれるよう精進してまいります。

九州大学病院 初期臨床研修医 津村 星汰

研修時期 令和2年2月

この度、2020年2月から3月中旬にかけて地域医療研修をさせていただきました、研修医2年目の津村星汰と申します。地域医療研修先として出水総合医療センターを選んだのは、せっかく地域医療研修を行うなら離れた土地で行いたいという理由で、これまで出水には訪れたことがありませんでした。

1週目は高尾野診療所で外来診療・訪問診療を経験しました。地域のかかりつけの患者さんの慢性期のフォローアップや、体調不良で訪れるかたの診療などを経験させていただきました。

2週目は野田診療所で外来診療・訪問診療を経験しました。内村先生には頸部エコー、心エコー、腹部エコーなどをマンツーマンでみっちり指導していただき、普段あまりやってこなかったエコーの手技が少し身につきました。

診療所研修を通して、80代90代と超高齢の患者さんが当たり前のようにたくさんいると思いました。また患者さんとの距離が近く、患者さんのことをしっかり把握し、事情に合わせた配慮をして診療をしていることが分かりました。

研修に合間にへき地研修として上場診療所に2回行きました。山奥で遠く病院へのアクセスも困難な場所だと思いました。診察道具は血圧計、聴診器のみで、病歴と身体所見を取ることの重要性を改めて再認識しました。

3週目からは院内研修で小児科をローテートしました。外来診療がメインでしたが、上気道炎など軽症の疾患から先天性心疾患のフォローアップ、リボソーム症の酵素補充療法をしている症例など幅広く診療していたのが印象的でした。指導していただいた倉内先生と才田先生は、出水地区の最後の砦となるような病院を2人体制で守っており、本当に凄いと感じました。また小児科を卒業する患者さんも何人か診る機会があり、移行期医療の難しさを感じました。

院内研修ではコメディカルの部門を見学させていただきました。リハビリテーション部ではPT、OT、STについて簡単に教えていただきました。当院では急性期から回復期まで長期に渡ってサポートしており、患者さんにとってはやりやすいだろうと感じました。薬剤部では化学療法、麻薬の管理について教えていただきました。麻酔科に進む自分にとって麻薬の管理について知れて収穫でした。地域医療連携室では出水地区の医療施設や連携体制について教えていただきました。MSWさんのおかげで紹介や逆紹介などが非常にスムーズに行えていることを再度確認できました。臨床工学科では透析設備や医療機器管理について教えていただきました。いつも整備して頂くおかげで安全に機械を使うことが出来ていると改めて感じました。

出水保健センターでは成人保健、母子保健について学びました。がん検診の受診率は低く、私たちから患者さんへ呼びかけていくこと・検査をしていくことも必要だと感じました。また3歳時健診を見学しました。子どもの様子や母親の様子をしっかり観察し、各家庭ごとに気がかりな点がないか話しあい、各サービスや精密検査につなげていく流れを知ることが出来ました。

1ヶ月間、関わった皆さんには快く迎え入れていただき、御指導頂きました。また虫垂炎加療で期間が延びましたが無事研修を終えられて内心ほっとしています。この場を借りて関わって頂いた皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。